

令和2年アレルギー疾患医療従事者向け研修会 Q&A

○ 研修会実施期間: 令和2年10月27日～令和2年11月26日

令和2年度アレルギー疾患医療従事者向け研修会のお申込みの際にご記入いただきました質問に対し、各診療科の医師が回答しております。是非参考にしてください。

【質問1】

喘息治療を継続し、悪化時に水溶性プレドニン投与していますが、コロナにかかっている場合でも効果がありますでしょうか。

【質問1の回答】

コロナにかかっている場合でもプレドニンは喘息発作に有効です。しかしながら、頻回に、プレドニンを使わなければならない程、喘息のコントロールが悪い状態にあると、コロナに感染しやすく、感染したときには強い発作が起きてしまう可能性もあり、日頃から喘息のコントロールをしっかりと良い状態にしておくことが重要です。

【質問2】

アレルギー性鼻炎で治療している場合、同じく鼻腔の粘膜を乾燥予防につとめると、コロナ感染はふせぐ事ができますでしょうか。

【質問2の回答】

SARS-CoV2の感染経路は、経気道感染(飛沫感染またはエアロゾル感染)であります。鼻粘膜および咽頭粘膜の乾燥は粘膜の自浄作用を減弱させるので、乾燥予防は推奨されますが、コロナ感染を完全には防ぐことができません。ただ、生理食塩水での鼻うがいやCOVID-19の症状を軽減させ、罹病期間を短縮させることを期待する論文発表はあります。

<http://www.jogh.org/documents/issue202001/jogh-10-010332.pdf>

予防的観点からは、鼻腔、口腔、咽頭粘膜の乾燥予防は勧められます。

【質問3】

「気管支ぜんそくの患者は新型コロナウイルスに感染しにくい可能性があるとの研究結果を、国立成育医療研究センター(東京)のグループが、発表した。アレルギーに関わる物質の影響で、新型コロナウイルスが体内に侵入しにくくなり、感染者が少なかったのではないかとみている。」という記事を読みました。アレルギーに関わる物質…治療薬のことでしょうか？ もし、体質的なことであれば、現在状態が安定していて治療をしていない人も含まれるのでしょうか。

【質問3の回答】

新型コロナウイルスの受容体としてACE2という蛋白が知られています。肺でのACE2の発現が多い人は、新型コロナウイルスにかかりやすい可能性があります。これまでに、喫煙、インフルエンザ感染などがACE2の発現を増やし、IL4(インターロイキン4)やIL13(インターロイキン13)といったアレルギーを引き起こす蛋白、さらには喘息患者における吸入ステロイド、などがACE2を減らすことが報告されています。

国立成育医療研究センターのグループがおっしゃっているアレルギーに関わる物質とは、このIL4やIL13のことです。しかしながら、現在の所、喘息患者がどうしてコロナウイルスに感染しにくいのか、本当のメカニズムは不明です(本当に感染しにくいのかを含めて)。一方、コントロールが悪い喘息患者はウイルス感染に罹り易く、重症化し易いことが古くから知られています。新型コロナウイルスの時代においても、喘息患者さんは最適な量の吸入ステロイドを使ってコントロールの良い状態を保つことが最も大切です。